

# 「Z会の映像」 教材見本

こちらの見本は、実際のテキストから1回分を抜き出したものです。

ご受講いただいた際には、郵送にて、冊子をお届けします。

※実際の教材は、問題冊子と解説冊子に分かれています。

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

東山の片隅に、あばれて人も影見ぬあばらやに、いとやさしくいまだ人慣れぬ女ありけり。庭の萩原まねけども風より外は問ふ人もなく、軒端の蓬茂れども杉むらならねばかひなくて、月にながめ嵐にかちても心をいたましむるたよりは多く、花を見、郭公を聞きても、慰むべきかたは稀なる事にて明かし暮らすほどに、清水詣でのついでに、<sup>(1)</sup>思はぬほかのさかしら出でて、いたらぬくまなかりし御世に、ただ一夜の夢の契を<sup>(a)</sup>結びまゐらせてける。<sup>(2)</sup>これも先の世を思へばかたじけなかりけれども、さしあたりて嘆きに恨みをそへて、心のうちは晴るる間もなし。かひなくありふれど、今一度の言の葉ばかりの御情だに待ちかねて、「よし、これ故そむくべき憂き世なりけり」と思ひ立ちて、ありし御心知りのもとへつかはしける。

<sup>(3)</sup>なかなかに問はぬも人のうれしきは憂き世を厭ふたよりなりけり

とばかり、心にくく幼びれたる手にて、縹の薄様に書きたるを、折をうかがひて奏しければ、「まことにさる事あり。たづねざりける心おくれこそ」と<sup>(b)</sup>御気色ありければ、やがて走り向かひて尋ぬるに、さらぬだに荒れたる宿

の人住む気色もなきを、やや久しくやすらひて、老いたる女ひとり尋ねえて事の様を詳しく問ひければ、「何といふ事は知り侍らず。あるじは天王寺へまゐり給ひぬ」といへば、やがてそれより天王寺へまゐり、寺寺を<sup>(c)</sup>尋ぬるに、亀井の辺りにおとなしき尼一人女房二三人ある中に、いと若き尼のことにたどたどしげなるがあり。この心知りを見つけて、あさましと思ひげにて、ただやがてうつぶして<sup>(d)</sup>泣くより外の事なし。かたへの者ども、声をたてぬばかりにて劣る袖なく絞れば、御使ひも見捨てて帰るべき心地もせず。おとなしき尼はこの人の母なりければ、事の様細かに尋ねけれども、「もとより<sup>(4)</sup>これは思ひつる事なり。<sup>(5)</sup>なにしにかは君の御ゆゑにてさぶらふべき。かしこく」といひもあへず泣きて、その後は<sup>(e)</sup>答へざりせば、「<sup>(6)</sup>よしなき御使ひをして、かはゆき事を見るよ」と悲しくて、さりとてもここにて世を尽くすべきならねば、立ち帰りぬ。このよしを<sup>(f)</sup>奏するに、「はしたなの心の立てざまや。<sup>(7)</sup>心おくれがとがになりつるよ」とて、かひなかりけり。あはれにも、やさしくも、ながき世の物語にぞなりぬる。

〔今物語〕

問1 傍線部(1)の説明として適切なものを、次の中から一つ選べ。

- ア 訪れていく男性にとつても望外の気の利いた仲介をする人がいたということ。
- イ 女性にとつて意外といつてよい立派な身分の人の訪れがあったということ。
- ウ 訪ねていく男性にとつて望んだ通りの機会が生まれたこと。
- エ 女性にとつて予想もしなかつたお節介な手引きをする人がいたということ。

問2 傍線部(2)の意味として適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア こうなったのも前世からの因縁だと思ってもったいなく感じられるもの、直面する現実としては嘆かわしく、その上恨みがましい気持ちにもなり。

イ こういったことも結局前世での悪行の報いかと思えばあきらめがつきそうなものだが、さし迫った嘆かわしさに恨みはつのるばかりで。

ウ 女の方でも前世からの宿縁だと思いと畏れ多いことだとは感じられたけれども、なにぶん突然のことで嘆きの上に恨みまでが加わって。

エ 今回のことも前世での善行の結果だと思いとありがたくは感じたけれども、押さえがたい嘆きとともに恨む気持ちもわいてきて。

問3 傍線部(3)の和歌の趣旨として適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア 音信をよこさぬことがかえって出家の機縁となり、喜ばしい。

イ 少しも言葉をかけてくれないあなたも、出家の後押しをしてくれたことはありがたい。

ウ なかなか音信をくれなかったが、出家するという知らせをくれたことはうれしい。

エ まったく訪れてくれないあの人も、わたしが出家したと聞いたら喜んでくれるだろう。

問4 傍線部(4)は何を指しているか、次の中から適切なものを一つ選べ。

ア 使いがやって来たこと。

イ 出家したこと。

ウ 見捨てられたこと。

エ 契を交わしたこと。

問5 傍線部(5)の意味として適切なものを、次の中から一つ選べ。

- ア 何のためにあの御方のためにお仕えしなければならないのでしょうか。  
イ どうやってあの御方が原因だとお知らせしたらよいのでしょうか。  
ウ どうしてあの御方のせいでございますか。  
エ 何をしにあの御方のお側に戻ればよいのでしょうか。

問6 傍線部(6)の意味として適切なものを、次の中から一つ選べ。

- ア 関係のない人の御使いなどをして、悲惨な光景を目の当たりにしたよ。  
イ 薄情な方の御使いなどをして、つらい体験をしたことだよ。  
ウ 御使いなどくだらぬことをして、恥ずかしい目にあつたことだよ。  
エ 御使いなどつまらぬことをして、気の毒な有り様を見ることになったよ。

問7 傍線部(7)の意味として適切なものを、次の中から一つ選べ。

- ア 臆病風に吹かれて失敗してしまったものだ。  
イ 気を回すことができず非難を浴びることになったよ。  
ウ 心配りが足りず罪深いことをしてしまったな。  
エ 引っ込み思案がわざわざいして罰があつたのだな。

問8 波線部(a)～(f)は誰の動作・状態か。それぞれ次の中から一つずつ選べ。

- ア いまだ人慣れぬ女      イ 心知り      ウ 帝  
エ おとなしき尼      オ 老いたる女      カ おとなしき尼の女房たち

出典：『今物語』二四 東山の女の全文 / 上智大学 文学部 97年

## 現代語訳

東山の片隅に、荒れ果てて人も姿の見えないあばら家に、たいそう上品で美しく、まだ世間ずれしていない女がいたのだった。庭の萩原が招くけれども風以外には訪れる人もなく、軒端の雑草は茂るけれども杉木立ではないので（人が心ひかれるわけもなくて、茂った）かいもなく、（秋の）月に（接しては）物思いにふけり、嵐に（接しては）恨み嘆いて（いるにつけて）も、心を傷める機会は多く、（春の桜の）花を見、（夏の）ほととぎすの声を聞いても、気をまぎらわすことのできることはめつたにないことで、（夜を）明かし、（日を）暮らすうちに、清水詣での機会に、思いもかけない（男女の仲をとりもつ）おせっかいがおこって、行き届かないところのなかった御治世で、（広い心で治めておられた帝に、女は）たった一夜の夢のような契りを結び申し上げてしまったのだった。これも前世（からの因縁）だと思ふと、もつたいなくは感じられるものの、直面する現実としては嘆かわしく、その上恨みがましい気持ちにもなり、心の中は晴れるひとときもない。どうしようもなく生きつづけてはいるけれども、もう一度（会いたい）という言葉だけの（帝の）御愛情でさえ待ちかねて、（女は）「ええい、ままよ、このために出家しなければならぬ世の中だったのだなあ」と決心して、かつの（取次ぎ役だった、帝の）御知り合いのところへ送った（歌）。

なかなか……かえって（帝が）音信をよこさないのも（私にとつては）嬉しいことだというのは、つらい俗世間を捨てて出家する機縁であったからなのだなあ

とだけ、奥ゆかしく幼さを残した筆跡で、薄い藍色の上質紙を、色の濃いのに薄いのを重ねたものに書いてあったので、（御知り合いが）折りを見計らって帝に申し上げたところ、「ほんとうにそのようなことがあった。訪れなかった（私の）配慮のなさよ」と、（帝の）御意向があったので、（御知り合いが）すぐに走り向かって（女を）探すと、そうでなくてさえ荒れ果てている家で、人が住んでいる気

配もない家なので、(御知り合いは)少し長い間うろろ探して、年老いた女一人を探し出して事情を詳しく尋ねたところ、「どういう理由かは知りません。女あるじは天王寺へ御参籠になってしまいました」というので、(御知り合いは)すぐにそこから天王寺へ参詣し、(寺域内の小さな)寺々を探すと、亀井の辺りに年配の落ち着いた尼が一人、女房が二三人いる中で、たいそう若い尼で、特にぎこちない様子の尼がいる。(その若い尼は)この知り合いを見つけて、驚きあきれた様子で、ただただそのままうつぶせになって泣いてばかりいる。そばにいる者たちも、声を立てないだけのことで(本人にも)劣らないほど袖を絞つ(て泣い)たので、御使い(である御知り合い)も見捨てて帰ることのできそうな気もしない。年配の尼は、この女の母であったので、(御知り合いが)事情を詳しく尋ねたけれども、(母親は)「もともとこの(出家する)ことは(娘が心に)思っていたことです。どうしてあの御方(≡帝)のせいではないましようか(、いいえ、帝のせいではございません)。恐れ多いことです」と最後まで言うこともできずに泣いて、その後は答えなかつたので、(御知り合いは)「おせっかいに女を帝に御紹介して)つまらぬ御使いをして、気の毒な有り様を見ることになったよ」と悲しく思うものの、だからといってここでいつまでも過ごすわけにもいかないので、(帝のもとに)引き返した。この事情を帝に申し上げると、(帝は)「中途半端な気持ちのかけ方をしてしまったなあ。私の心配りの足りなさが、罪となってしまったことよ」と(おっしゃつ)て、そのままどうしようもなく終わってしまったのだった。(帝の女に対する心遣いは)しみじみと感動的でも、情け深くもあり、長く人々の間で語り草になったのだった。

解答

問1 エ 問2 ア

問3 ア 問4 イ

問5 ウ 問6 エ

問7 ウ 問8 (a)≡ア (b)≡ウ (c)≡イ (d)≡ア (e)≡エ (f)≡イ